

さいたま市長 8月定例記者会見

平成27年8月26日（水曜日）

午後2時00分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の東京新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 東京新聞 8月の幹事社を務めます東京新聞と申します。よろしくお願いたします。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
最高気温が35度を超える猛暑日が続いたことしの夏ですが、ここ数日はしのぎやすい陽気となり、間もなく訪れる秋の気配も感じられるようになりました。

さて、さいたま市では市民の施策に対する意向等を把握し、施策や事業の推進に反映することを目的としました市民意識調査を2007年から毎年実施しております。このたび、ことし実施をしました調査の中間結果がまとまり、今の地域を「住みやすい」と答えた方は82.9%、また「住み続けたい」と答えた方は84.3%となり、ともに調査開始以来、最も高い数字となりました。

本市では今年度から「住みやすい」、「住み続けたい」と感じる市民を増やし、2020年に市民満足度を90%以上にする「さいたま市CS90運動」をスタートさせました。大きな目標ですが、達成に向けて全職員一丸となって精いっぱい取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。

では、本日の議題に入らせていただきます。

市長発表：議題1 「平成26年度決算概況について」

まず、本日の議題1であります、「平成26年度決算概況について」ご説明をさせていただきます。

まず、一般会計の決算の特徴をご説明させていただきます。

平成26年度は、「総合振興計画後期基本計画」、「しあわせ倍増プラン2013」及び「成長戦略」を推進する事業を実施してまいりました。本市の強みと他の都市にない優位性を生かした取り組みを行ってまいりました。

具体的には、新エネルギー政策推進事業、新クリーンセンター整備事業、放課後児童健全育成事業、保育所の新設整備、健幸サポート事業、生活保護学習支援事業、スクールカウンセラー等の活用、スクールアシスタントの配置、国際自転車競技大会を通じ「スポーツのまち さいたま」をアピール、また浦和東部・岩槻南部地域整備推進事業、防災行政無線整備事業、通信指令体制整備事業、さらに市民生活を重視した事業を実施し、市民満足度が高い「高品質経営」市役所への一層の取り組みを行ったところであり、

その結果、一般会計の決算額は、歳入決算といたしましては4,618億9,800万円、そして歳出の決算額としましては4,503億7,500万円、また実質収支額は58億9,000万円になりまして、(歳入・歳出の)決算額についてはさいたま市誕生以来、最大の規模ということになります。また、さいたま市誕生以来、引き続き連続して黒字を維持しております。

歳入の特徴のうち、歳入の根幹をなす市税収入について説明をさせていただきます。市税収入につきましては2,251億8,200万円、前年度比59億9,100万円、2.7%の増になります。個人市民税が個人所得及び納税義務者数の増加により増えました。また、法人市民税が景気の回復基調に伴います企業収益の増加によって増えました。また、固定資産税、都市計画税が家屋の新增築により増えたというところでこういった決算となっております。

続きまして、地方交付税でありますけれども、65億9,400万円、これは前年度と比較をしますと11億7,300万円、15.1%の減になります。これは、市税収入の増加や消費税率引き上げに伴う地方消費税交付金の増加等によりまして減少したということでもあります。国庫支出金は738億1,500万円、前年度と比べますと38億100万円、5.4%の増になります。これは、臨時福祉給付金事業費補助金及び子育て世帯臨時特例給付費補助金の増加等によりまして増えております。

続きまして、一般会計の歳出の主な特徴についてご説明をさせていただきます。まず、義務的経費であります。2,272億9,900万円でございます。これは、前年度と比べますと150億3,100万円、7.1%の増加になります。これにつきましては自立支援給付費、臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金など扶助費の増加、また臨時財政対策債の償還額の増加によって公債費の増になりました。内訳としましては、人件費が23億300万円の増、扶助費が76億1,200万円の増、公債費が51億1,600万円の増になっております。

次に、投資的経費についてであります。699億6,000万円、これは前年度と比較をしますと59億8,800万円、9.4%の増になります。これは、新クリーンセンター整備事業及び浦和東部・岩槻南部（地域）整備推進事業により増えたものであります。

そして、その他の経費としましては1,531億1,600万円、前年度と比べますと22億9,600万円、1.5%の減になります。公共施設マネジメント基金への積み立てについては増となりましたけれども、財政調整基金及び地域経済活性化・雇用創出臨時交付金基金への積み立てが減となり、全体としては1.5%の減となったものでございます。

続きまして、特別会計についてご説明をいたします。特別会計につきましては、国民健康保険事業の特別会計ほか（15）でございますけれども、この16の主な特徴についてご説明します。

全体の歳入決算額としては前年度と比べて2.6%増の3,139億5,600万円、また歳出の決算額については前年度と比べますと2.2%増の3,102億9,800万円、そして実質収支額については30億8,200万円になりました。主な特徴としましては、国民健康保険事業、また後期高齢者医療事業、介護保険事業の各会計で保険給付費などがそれぞれ増となったものであります。

これらを財政健全化判断比率等によってご説明させていただきたいと思いますが、実質赤字比率、また連結実質赤字比率は、いずれも黒字ということであります。そして、実質公債費比率の5.2%は前年度と比べて0.3ポイントの減ということで、実質公債費比率も下がってきているという状況でございます。

また、将来負担比率については前年度より1.2ポイント増の26.9%でありまして、全ての健全化判断比率において、法に定められました早期健全化基準を大きく下回っているために、健全な状況が維持できていると言えると思います。

資金不足比率については、11の企業会計のうち、いずれも資金不足は発生していないという状況であります。

続きまして、公営企業会計についてご説明させていただきます。公営企業会計は、3つの会計がございます。水道事業会計、病院事業会計、下水道事業会計であります。これらにつきましても経営の健全化と計画的な経営を推進してまいりました。

その結果であります。まず水道事業については、事業収益としましては318億9,400万円、事業費用としては267億4,600万円、当年度の損益は51億4,800万円でありまして、水道事業についてはさいたま市誕生以来ずっと黒字を続けているということでもあります。

また、病院事業会計につきましては、事業収益については146億3,800万円、また事業費用については171億1,600万円、当年度損益がマイナスの24億7,800万円ですが、これは会計制度の変更に伴いまして、退職給付引当金約24億5,600万円を一括して計上したことが要因となりまして、こういった赤字ということになってございます。

また、下水道事業会計につきましては、事業収益が226億9,200万円、また事業費用が225億3,200万円になっておりまして、当年度損益については1億6,000万円黒字であります。下水道使用料の料金改定などによりまして、収益が増加しているということでもあります。

議案1「決算の概況について」は以上でございます。

市長発表：議題2「2015ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム出場決定選手について」

続きまして、議題2「2015ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム出場決定選手について」説明をさせていただきます。

10月24日土曜日、さいたま新都心駅周辺で開催されます「2015さ

いたまクリテリウム」について、出場が決定した3名の選手をご紹介いたします。出場する全選手につきましては、9月24日の出場選手発表記者会見で発表させていただきますが、豪華な顔ぶれが先行して決定いたしましたので、お知らせをさせていただきたいと思います。

まず1人目は、チームスカイに所属しますクリス・フルーム選手であります。さいたまクリテリウムは、ことしで3年連続3回目の出場になります。このフルーム選手ですが、ことしのツール・ド・フランス本大会におきましても、2年ぶり2度目の個人総合優勝、いわゆるマイヨジョーヌに輝くとともに、山岳賞も獲得しまして、さいたまに1年ぶりに帰ってくることとなります。現在世界最高の選手の一人であるということでもありませんし、名実ともに王者の走りをこの10月のさいたま新都心でも披露してくれるものと期待をいたしております。

続きまして、世界で活躍する日本人選手2人が参戦をいたします。お二人とも3年連続3回目のさいたまクリテリウムの出場となります。

まず1人目は、チームヨーロッパカーに所属しております^{あらしろ}新城幸也選手であります。残念ながら、けがの影響もございまして、ことしのツール・ド・フランスの出場はかないませんでしたけれども、既にコンディションは回復しております、日本の第一人者として、ことしもさいたま新都心を駆け抜けるということになっております。

次に、トレックファクトリーレーシングに所属いたします別府史之選手であります。2009年のツール・ド・フランスでは、日本人として初めて敢闘賞を受賞されました。過去2回のさいたまクリテリウムでも敢闘賞を獲得しております、ことしも果敢な走りで多くの観客を沸かせるかと考えております。

本日は、以上3名の選手の出場を報告させていただきました。

なお、9月24日の出場選手発表記者会見では、個人のタイムトライアルレースに出場する女子選手、そしてパラサイクリング選手も含め、出場する全選手について発表させていただく予定となっております。

報道関係の皆様に向けました出場選手発表記者会見のご案内は9月の上旬を予定しておりますので、記者の皆様には、どうぞ取材においていただき、また大会を大いに盛り上げていただければありがたいと思っております。

す。よろしくお願いいたします。

議題2については以上でございます。

議題に関する質問

- 東京新聞 では、市長からの説明について質問に移りたいと思います。まず、幹事社から2点伺います。
まず、決算の概況についてですけれども、決算の規模が過去最大になったということで、ある意味、人口が増えている自治体、大きくなっている自治体ですので、自然の理というか、当然そうなるであろうという面もあると思うのですが、この規模について、市長の受けとめ、どのようにお感じになっていらっしゃるのかをお願いします。
- 市 長 規模についてだけを申し上げますと、今記者の方からもお話がありましたけれども、おかげさまで今順調に人口が増加をし、かつ比較的経済の方も緩やかながら明るさが見えているという中で、それに対応した決算になってきていると認識をしております。そういう意味では、さいたま市の場合はまだここ10年ぐらいは増えていくと推計をされておりますので、少しずつではありますけれども、こうした歳入、あるいは歳入が増えてくるという見通しの中で、こうして市政運営ができるということは大変ありがたいことであると思っております。
- 東京新聞 それから、クリテリウムの出場決定選手に関して、ちょっと単純な質問で恐縮なのですが、9月24日の出場選手記者会見にこの3選手が出席するということではないと思うのですが、この3選手の中で記者会見への出席がもし決まっていれば、あるいは見通しということでもいいのですが。
- 市 長 これは、申しわけありません、まだわかりません。その発表のタイミングで何らかの選手、日本人選手も含めて発表させていただきますが、その中でどなたか出る可能性もなくはないと思いますが、今のところまだ未定ということでご理解いただければと思います。
- 東京新聞 わかりました。
では、市長からの説明について各社から質問をお願いいたします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

決算の関係でまずお伺いします。こちらの歳出状況の中で、歳出に占める義務的経費の割合が50.4%ということで、さいたま市になって初めて50%を超えたというふうに伺っています。全体的には健全な決算状況になっていると思うんですが、この数値をどのように受けとめて、今後の予算の編成等にどのように反映させていきたいと考えていらっしゃいますでしょうか。

○ 市長 この義務的経費については、特に扶助費等、高齢化が進む中で今後とも増え続けるということが予想されておりますので、そういったことを意識しながら財政運営をしていかなければいけないだろうと私たちとしては考えております。そういう意味で、私たちとしては絶えず中期の財政の見通しをベースにしながら毎年の予算編成をさせていただいております。今回のこうした決算状況も踏まえながら、また扶助費等の義務的経費が増加をしていくということを十分に意識しながら、歳出、予算の編成を私たちとしてもしっかりしていくと。長期的な視点も合わせ持ってやっていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 もう一点、クリテリウムの選手の関係なんですが、フルーム選手がことし優勝を本大会ですて出場されるということですが、きょう3人発表されましたが、その選手、特にフルーム選手、どんな走りをしてほしいと期待していらっしゃいますでしょうか。

○ 市長 ちょうどことしでフルーム選手は3年連続してさいたまクリテリウムに出場していただくことになりました。特に1回目の2013のさいたまクリテリウムでも優勝をされまして、その翌年はちょっと体調も悪くて44位ということでありましたけれども、そういう意味ではまさに今名実ともにナンバーワンの選手と言っても過言でない選手でありますので、その選手の走りを間近に見ていただく、そしてこの選手に思い切り走っていただいて、そのすばらしい走りを日本の皆さんにぜひごらんをいただくということになればうれしいと思っております。

また、フルーム選手も時折いろいろな場面でお目にかからせていただく機会もありますが、日本に、あるいはさいたま市に対しても非常によい印象を持っていただいております。私どもが気軽に声をかけさせていただいたときにも非常に気軽に声を返していただいたり、またぜひさいたまク

リテリウムに行きたいというようなお話もしてくれておりましたので、今回まさにマイヨジョーヌという、マイヨジョーヌはまさにツール・ド・フランスの看板、シンボルでありますから、それを獲得したこのフルーム選手がまた3度さいたまクリテリウムに来てくれるということは私たちにとっても大変ありがたいことであり、まさにこの大会の誇りでもあると思っております。

- 埼玉新聞 日本人選手については、お二人についていかがですか。
- 市長 日本人選手2人につきましても3回連続して今回出場していただけたということになりました。特に新城選手については、今年度について少し体調が悪くて、ツール・ド・フランスの本大会に残念ながら出場できませんでしたけれども、その後の（ブエルタ・ア・エスパーニャ）という、3大ロードレースの一つがやっている大会には現在出場されているようでありますし、やはりツール・ド・フランスというなかなか日本人では出場できない大きな壁を越えて出場されているこのお二人が、この日本で開催されるツール・ド・フランスさいたまクリテリウムに出場するというので私たちも大変うれしく思っておりますし、またこの2人の選手の走りというのは、まさにここでしかなかなか見られないということもあろうかと思っておりますので、ぜひ楽しみにしていただければと思います。
- 東京新聞 ほかいかがでしょうか。よろしいですか。
では、幹事社として、代表質問させていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくをお願いします。

幹事社質問1：埼玉県知事選について

それでは、3点あります。まず、1つ目が埼玉県知事選についてです。今月の埼玉県知事選で、上田清司知事が大差で4選を果たしました。一方では、今回も記録的な低投票率でした。さいたま市長として知事選の結果をどう受けとめていますか。また、4期目に入る上田県政への注文、期待をお願いします。

幹事社質問2：全国学力・学習状況調査の結果について

2点目が全国学力テストについてです。全国学力・学習状況調査の結果が公表されましたけれども、さいたま市の結果について、市長としての所感をお願いいたします。

幹事社質問3：五輪エンブレムの盗作疑惑について

それから3点目、東京五輪のエンブレムのいわゆる盗作疑惑についてです。東京オリンピックの公式エンブレムについて、ベルギーの劇場のロゴデザイナーが著作権を侵害されたと主張しています。大会組織委員会は、権利侵害を否定する声明を出しています。一方、エンブレムをデザインした佐野研二郎氏による大手飲料メーカーのキャンペーン商品では、佐野氏が一部の商品について模倣を認め、波紋が広がっています。東京オリンピックの競技の開催予定地の市長として、一連の問題についての見解をお願いいたします。

以上3点です。

○ 市 長

それでは、幹事社質問に順次お答えしたいと思います。

まず初めに、埼玉県知事選挙について質問にお答えしたいと思います。今回の埼玉県知事選挙の結果は、これからの5年から10年がこの埼玉県にとって重要な時期であるという上田清司知事の認識が広く有権者の支持を得たものだと考えております。また、有権者の皆様が3期12年の上田県政における実績を高く評価した結果であると考えています。

一方で、連日酷暑であったとはいえ、また夏休みというものの間近にあったとはいえ、投票率が27.04%という低い投票率であったということについては、県政への関心の低さについて、有権者からの警鐘と受けとめるべきだと考えております。

当選をされました上田清司知事におかれましては、引き続き県政の課題に積極的に取り組んでいただくとともに、埼玉県政、またさいたま市政の課題を解決するための連携を期待いたしております。

知事選挙期間中に上田清司知事が掲げました政策集であります「埼玉NEXTイニシアチブ」は、さいたま市における課題と共通することが多いと考えております。例えば団塊の世代が75歳となる2025年問題に対する危機感は共通していると考えています。また、企業誘致や公教育の充

実、また健康長寿プロジェクトなどは本市と埼玉県で連携すべきことと考えております。

環境エネルギーに関しましても既に九都県市において水素社会に向けた規制改革を国に要望するなどの活動も行っております。加えてスポーツについては、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム、またさいたま国際マラソンなど、今までの連携をさらに発展させる取り組みなどを行っているところであります。

これ以外でも首都圏における防災機能の強化のため、首都高速の北進あるいは東進、また大宮駅を初めとした鉄道機能の強化など魅力あるさいたま市、あるいは埼玉県づくりに指導力を発揮していただきたいと考えております。

続きまして、2つ目の質問、全国学力・学習状況調査の結果についてでございます。本市は、昨年度に引き続きまして全ての科目で全国あるいは大都市の平均正答率を上回っているという報告を受けております。

また、生活習慣等に関します質問の調査結果からも、全国と比べて大変望ましい状況にあると聞いております。このような良好な結果は、保護者や地域の方々の支援、また学校の熱心な指導によるものと考えております。今後も学校教育を一層充実をさせ、子供たち一人ひとりのよいところや得意な分野を伸ばして、また自信を持って将来の夢あるいは目標に向かって子供たちがしっかりと歩んでいけるように環境整備をしていきたいと考えております。

続きまして、オリンピックエンブレムの盗作疑惑についてのご質問にお答えしたいと思います。東京2020エンブレムにつきましても、ちょうど5年前に相当する本年7月24日に大会組織委員会におきまして華々しく発表されたものと記憶をしております。

エンブレムの選定に当たりましては、国内外を代表するデザイナー、個人による条件つき公募が実施され、国内外104作品の応募の中から、デザインとしての美しさ、新しさ、そして強さ、またそこから生まれる展開力というものを審査基準として、IOCの規定上必要とされる手続を踏まえて、なおかつ商標登録上も十分調査を行い決定されたものと理解をいたしております。

海外のデザイナーの方から問題提起がなされまして、組織委員会と十分話し合いを持たれたのかどうかわかりませんが、結果的に提訴をされたという事実に至ってしまったことについてはとても残念なことであると思っております。

一日も早くこの騒動が解消されて、2020年に向けてさいたま市でも2会場で競技が実施されるということを市民とともに純粋に盛り上げていくことで、記念となる、子供たちに大きな夢や希望を与えられる、そういった大会にできるように私たちとしても準備をしていきたいと考えております。

○ 東京新聞 ありがとうございます。

では、ただいまの代表質問の説明について、質問がある社は質問をお願いいたします。

幹事社質問に関する質問

○ テレビ埼玉 テレビ埼玉と申します。

学習状況調査の件なんですけれども、かなり結果としてはいいものだったと思うんですが、その上で今後さらによくしていくために、こういったところを取り組んでいったほうがいいんじゃないかとか、お考えがあれば教えてください。

○ 市長 さいたま市は((会見後削除) 昨年からだったですかね、各学年ごとに)これと同じものではありませんけれども、学習状況の到達度をはかるためのこういったテストとか状況調査を把握するためのことをやっております、やはりこの学力学習状況が単に他の都市との比較とかそういうことだけではなくて、子供たち一人ひとりが学習の力を伸ばしていくためのものとして十分活用されていくということが必要だと思っております。

そういったことがやりやすい環境を今さいたま市としてもつくらせていただいて、個々の子供たちが毎年どういうふうに学習状況が到達しているのかを十分に把握をしながら、個々の子供たちに対応しながら、またしっかりと基礎力、あるいは基礎力以外の部分も含めまして力を発揮しやすいように、学校においても十分カリキュラムや、あるいは対応なども検討していただきながら進めていただきたいと思っております。

- 東京新聞 ほかはいかがでしょう。
- 朝日新聞 朝日新聞です。
- 知事選に関連してなんですけれども、知事選の争点の一つが、上田知事が出した3期12年の多選自粛条例だったんですけれども、清水市長も同じような条例案を議会に出されたこともあります。清水市長としては多選自粛条例というか、多選ですね、3期12年、任期に関してはどうしてお考えをお持ちでしょうか。
- 市 長 私の場合については、議会の中で残念ながらご理解いただけず否決ということになりまして、条例自体は存在していませんけれども、基本的には何期が多選かということまでは明確なものはありませんけれども、やはり一般的に余り同じ人が過度に長くやるということの弊害はあるのではないかと考えております。その辺についてはそういうことを十分意識していくことは必要だと思っておりますが、ただ私自身として私がいただいている任期は、やはり選挙で選ばれる任期の4年ありますので、4年間の中でどういう政策を行い、進めていくかということのマニフェストあるいはいろいろな計画としてあらわしておりますので、それを4年間の中で取り組み、また進めていくということをしっかりやっていきたいと思っております。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
- 今の質問に関連してお伺いしたいんですけれども、今回の知事選の争点の多選の件なんです。上田知事は選挙で信を問いたいというようなことをおっしゃっていましたが、この当選によって、多選に対する県民の理解といいますか、4選、条例を破ることになるけれども、それでも構わないという信任が得られたというふうにお考えでしょうか。
- 市 長 条例については自粛ということでありましたので、条例そのものに違反をしているということではないのだろうとは思っておりますが、いずれにしても上田知事がそういう政治信条をこれまでもお持ちでいらっしゃったわけなので、その部分は十分ご認識というか、特定の個人が余り長くすることによる弊害みたいなことを十分に念頭に置きながら、今後県政運営が行われるという、そういった弊害が出ないように県政運営が行われるということなんだろうと。それに対して県民の皆さんが、もちろんそのこと自体に対しては必ずしも賛成でないという方々もいらっしゃいましたけれど

も、県政全体としては上田知事に引き続きやってほしいという結果としてあらわれたものであると認識しております。

○ 埼玉新聞 それから、引き続き上田知事が県政のほうを担うわけですが、これからさいたま市と県でどういう部分を特に連携してやっていきたいと考えていらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 先ほども少し申し上げたと思いますけれども、やはりこれはさいたま市も埼玉県も共通した認識だろうと思いますが、これから5年から10年、2025年問題ということでよく言われますけれども、やはり全国でもトップレベルで急激に高齢化が進んでいく地域であるというこの共通の危機感を持っていく中で市政運営あるいは県政運営が行われていく必要があると。そのために、私たちとしては共通のいろいろな施策等については、時には協力をし、時には連携をして強化をして、また一緒に取り組んで効果を上げていく必要があるかと思っております。

またもう一方で、もうしばらく急激さが緩やかな時代、さいたま市にとっては、まだ10年ぐらいは人口が増えるというような試算も出ておりますので、比較的人口が増えていたり、企業がたくさん立地していただいているというよい状況のうちにその準備をしっかりとしていく、またそのよい状況をできるだけつなげていく、いわゆる歳入を増やすということも含めて、これから次の時代に向けて着々と手を打っていかねばいけない、そういう大変重要な時期だという認識をしております。ですから、そういった福祉の問題でありますとか、あるいは成長していくための企業誘致であったり、あるいは健康長寿の問題であったり、あるいはこれからの環境であるとか、エネルギーの問題であったり、健康に関連しますけれどもスポーツの問題であったり、そういったことをしっかりやっていきたいと思っておりますし、またあわせてまちづくりの基盤をつくるのも、そうこれから大きな投資ができにくくなる時代がやってくるわけですので、その前に、引き続き埼玉県、あるいはさいたま市が成長し続けられやすいまちづくりのインフラを整備をしていくということも重要な視点だと思っておりますので、その中で首都高の北進の問題でありますとか、あるいは大宮駅の結節機能の強化みたいなことも含めて埼玉県と一緒にやっていければと思っております。

- 東京新聞 ほかにはどうでしょうか。
よろしいですか。
それでは、そのほかに質問がある社は質問をお願いいたします。

その他：美園タウンマネジメント協会の設立について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
一昨日、美園タウンマネジメント協会というものが設立されました。それで会見が行われたんですが、共通プラットフォームをつかって、そこでその住民がいろんなサービスを調べたり、申し込んだり、利用したりできるという、かなり新しい試みだと思うんですが、この試みについての受けとめと、こういう試みを通してあの地域でどういうまちづくりをしていきたいとお考えになっているかをお聞かせください。
- 市長 ご質問にお答えしたいと思います。
まず、この浦和美園地区については、皆さんご案内のとおり今さいたま市は2都心4副都心という考え方で、多角的なネットワーク型の都市を整備していこうということをまちづくりの基本的な考え方に据えております。その中で、この浦和美園地区は4副都心のうちの一つに位置づけておりまして、この副都心としての区画整理事業を中心に、いろいろなまちづくりに取り組んでいるところであります。そんな中で、やはりさいたま市全体のエリアの中では比較的この美園エリアというのは、まだまだまちづくりをしやすいエリアということもあって、今回国の総合特区で次世代自動車・スマートエネルギー特区というご指定をいただいたり、あるいはこれまでの従来の考え方の中でスポーツ、あるいは健康というものをキーワードとしたまちづくりというものもありましたので、そういったものに加えながら、これからさいたま市が、こういうまちをつかっていきたいということの一つの先導的なモデルになり得るような都市であると私自身は認識しておりまして、その中で今回美園タウンマネジメント協会という、これは単に行政だけがまちづくりをするということではなくて、いろいろな事業者がいろいろな得意分野を活用して、そしてさまざまなサービスを住民の皆さんに提供していこうと、そして将来的には独立的な事業を行って、継続的な住民サービスにつなげていこうという考え方でスタートしており

ますので、そういう意味では非常に未来指向型の、これからのさいたま市、埼玉県のみならず日本や世界に発信ができるまちづくりのモデルになっていくのではないかとということで、私自身は大いに期待しております。民間の事業者、それから大学、それから行政、そして今後さらに市民の皆さん等々に参画をしていただきながら、こういったまちづくりが進められるということは大変私自身も大いなる夢を持っておりますし、期待もしているというところであります。

○ 埼玉新聞 今回の新しい協会なのですけれども、市が旗振り役というのでしょうか、そういうのになっているようにも受けとめられるんですが、その背景としてなのですが、これからまちづくりをしていくというのは、人が、さいたま市はまだしばらく増えるとは言っても、日本全体としては人口が減っていく中で、新しいまちをつくるというのはかなりリスクがあることでもあると思うのですが、そういった意味でかなり差別化を図るとか、そういったような意味合いというか狙い、そういうものもあるんでしょうか。

○ 市長 先ほども言いましたように、4つの副都心のうちの一つとして位置づけておりますので、当初は健康というようなことをキーワードにしながらまちをつくっていきこうというイメージで進めてきたわけですが、時代が少し変遷をしていく中で、それだけではなくて環境であるとか、また健康の中でもさらにスポーツであったり、あるいはもう少し広いITとかICTを活用したものであったり、いろいろな広がりが出てきて、そういったものをさらに活用したまちをつくっていくということが、今おっしゃられました他の地域との差別化ということにも当然つながると思っておりますけれども、またあわせてさいたま市の目指す都市イメージを最もわかりやすく表現した都市の一つに、地域の一つになってくるのではないかと期待感も持っているということです。

その他：さいたまトリエンナーレについて

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

先日、さいたまトリエンナーレのプレイベントが始まりまして、来年度に向けてスタートしたかと思うのですが、さいたまトリエンナーレはどういう状態になれば成功したというふうに言えるのかというのを、市長のご

認識はいかがでしょうか。

- 市長 まだ、来年度の2016年の本番のさいたまトリエンナーレについて、実行委員会の中で正式決定もしておりませんし、私もまだ具体的な事業については、実を言うとわかっておりませんが、ただ、発表以来、実行委員会の中で、あるいは公式な場以外も含めて、トリエンナーレ、芸術祭というものが比較的現代アートが中心となって、わかりにくさがあったり、地域住民の皆さんと少し離れてしまうような傾向もあるので、私たちとしてはこのトリエンナーレの中でもっと市民が参加をしていただいたり、参加度の高いトリエンナーレにしたいと。そして、そのことによって市民の皆さんが、また主体的にさまざまな芸術活動を行ったり、文化活動を行ったり、創造的な活動につながっていく一つの起爆剤といいますか、シンボルイベントになってほしいと思っておりますので、まだ何人とかというところまでは言えませんが、やはりできるだけ参加者の多い、いろいろな人がかかわってつくり上げていく、そういうイベントに、そういう事業になってほしいと思っております。
- 朝日新聞 外からどれぐらいの人が訪れたとか、そういう人数というのは目安にはなるのでしょうか。
- 市長 もちろんそういったものを全く考えないということではありませんけれども、まだ細かい事業とか固まっておられませんので、その中で私たちとしてのどういうものを目標にして進めていくか、その具体的な、どういう数とかどういう目標みたいなものについては、今後皆様にお知らせをしていきたいと思っております。

その他：戦後70年談話について

- 朝日新聞 あと、先日安倍首相が戦後70年談話を発表しましたが、それについては清水市長はどのように受けとめられましたでしょうか。
- 市長 安倍総理としては、これまでの村山談話、それから小泉談話とは違った未来指向型の談話を発表されたいという、そんな思いを持ってやられてきたということを聞いていますけれども、村山、そして小泉両談話の中の基本的な日本政府としての考え方、あるいは捉え方ということ踏襲しながら未来志向の談話をつくられたと認識しているところであります。

その他：さいたまクリテリウムについて

- 埼玉新聞 もう一つお伺いします。
- クリテリウムの話に戻るのですが、プレゼンティングスポンサー、いわゆる冠スポンサーですけど、去年はたしか9月の中旬ぐらいに決まったと思うのですが、現在の契約に向けての状況はどうなっていますでしょうか。
- 市 長 現時点につきましては、いろいろ営業活動といたしますか、いろいろな企業にお話をさせていただいている最中でございます。当初おおむね昨年度ぐらいの協賛金を目標に集めていきたいとお話をしていたかと思えますけれども、それについては着実に進んできていると言えるのではないかと考えております。まだ具体的に、正式にどのぐらいになったとかということの発表はできませんけれども、そういう冠も含めて、今いろいろなお話をさせていただいているという段階であります。
- 埼玉新聞 プレゼンティングスポンサーの決定できる目安というか、時期はことしはどのぐらいになりそうでしょうか。
- 市 長 何ともまだ申し上げられませんが、1つは選手発表のところぐらいまでにはめどはつけたいという感じは持っておりますけれども。
- 埼玉新聞 順調には進んでいるというか、ことしはそのプレゼンティングスポンサーがつかないとか、そういう可能性はないと。
- 市 長 もちろん今それぞれの協賛企業と契約をしているところもあろうかと思えますけれども、していないところもまだまだたくさんございまして、それで口頭での合意ということもまだまだたくさんございまして、冠スポンサーがつくともつかないとも、まだ言える状況ではないと考えております。
- 東京新聞 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。
- どうもありがとうございました。
- では、以上をもちまして、本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進 行 以上をもちまして、市長記者会見を終了させていただきます。
- 次回の開催は、9月16日水曜日13時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時49分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。